スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

三重県志摩市

自 治 体 名 ： 三重県志摩市
担 当 課 名 ： 教育委員会事務局生涯学習スポーツ課
電 話 番 号 ： 0599-44-0339

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	178.95㎢
人口	42,882人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	857人
部活動数 （運動部活動のみ）	31部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

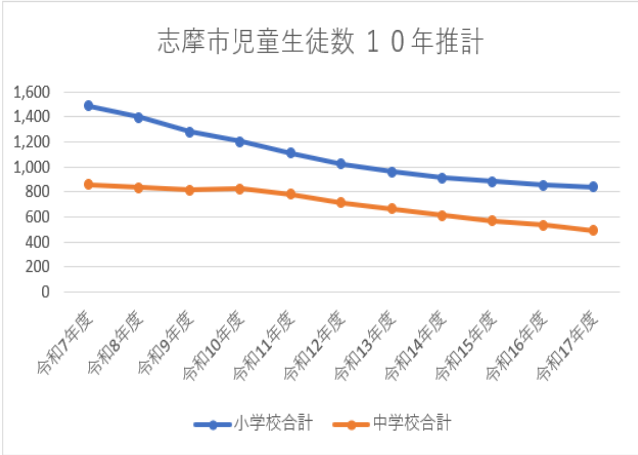
志摩市には、中学校が6校あり、今後生徒数推移としては、令和11年度には800名を下回り、以降はさらに減少傾向が進むとされている。

現在市内には6校31部活あるが、令和9年度には5校となる方向で進んでおり、中学校によっては生徒数に応じ、運動部活動8種目、文化部活動2種目の計10種目選択肢のある学校もあれば、運動部のみ2種目しかない学校もある状況である。

当市は半島地域にあり、5町が市町村合併で市になった経緯があるため、中学校が点在しており、拠点を設けて活動する際も「移動時間」や「移動手段」が1番の課題となっている。
また、学校部活動と地域クラブ活動の大きな違いとなってくる「受益者負担」に関しても保護者の理解がなければ、前述の課題と合わさることで、より休日の地域クラブ活動に取組む子どもの減少につながることが懸念される。
「指導者確保」についても、総合型地域スポーツクラブや市スポーツ協会、市スポーツ少年団等、各種団体と連携して資格や研修会等課題に取組む必要がある。

令和７年度　市内中学校の部活動状況　　2025年5月1日現在

	志摩中学校	大王中学校	東海中学校	文岡中学校	浜島中学校	磯部中学校
野球	○	○	○	○		○
サッカー				○		
バスケット（男子）	○		○	○		○
バスケット（女子）			○	○		
バレーボール（男子）				○		
バレーボール（女子）	○	○		○		○
陸上競技	○			○		○
ソフトテニス	○		○	○	○	
卓球	○	○	○	○	○	
バドミントン				○		○
部活動数計	6	3	5	10	2	5
市内中学校計	31					

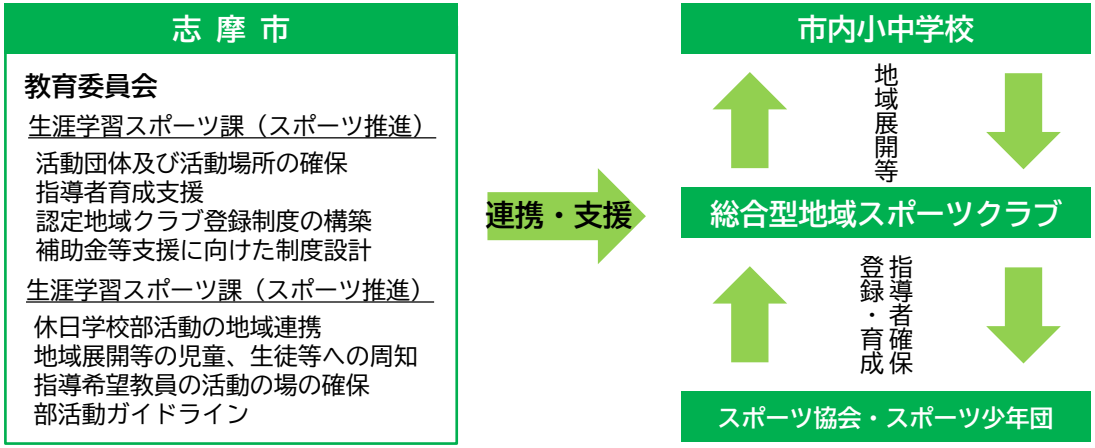


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（生涯学習スポーツ課・学校教育課）

- 休日学校部活動の地域展開等に向けた関係団体との各種調整
- 活動団体及び活動場所の確保、指導者育成支援
- 休日学校部活動の地域連携、地域展開に向けた児童、生徒等への周知
- 認定地域クラブ登録制度の構築、補助金等支援に向けた制度設計
- 指導を希望する教員の活動の場の確保

◉首長部局

- 予算措置
- 交通手段の検討
- 広報　　等

年間の事業スケジュール

令和7年4月
- 地域展開（サッカー）活動開始
- アンケートの実施（スポーツ協会）

令和7年5月
- アンケートの実施（小中学生、教職員）

令和7年6月
- 第1回学校部活動在り方検討会開催

令和7年8月
- アンケートの実施（スポーツ少年団）
- 第2回学校部活動在り方検討会開催

令和7年12月
- 第3回学校部活動在り方検討会開催

令和8年3月
- アンケートの実施（小中学生・教職員・保護者）
- 第4回学校部活動在り方検討会開催
- 事業完了報告・成果報告

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ（6部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	1人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
（一社）クラブ志摩	総合型スポーツクラブ	サッカー	・平日20回程度 ・休日月4回	9:30～11:30	小6：1人 1年：4人 2年：21人 3年：6人	令和7年4月1日～令和8年2月28日	11人	1人	3,000円/月額最大	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

● 令和7年5月6日（火・休）　スポーツフェスティバル「GO ACTION FES.」
　成長期にある子どもたちに、気軽にスポーツを楽しめる「きっかけ」を提供することで、スポーツの楽しさを感じるとともに、継続的に体を動かす習慣を身につけてもらうことにより、生涯スポーツ及び健康づくりの推進につなげることを目的に、志摩市阿児アリーナで開催。幅広い年代の子どもたちに、多岐にわたるスポーツプログラムを体験していただいた。

2.実証内容と成果

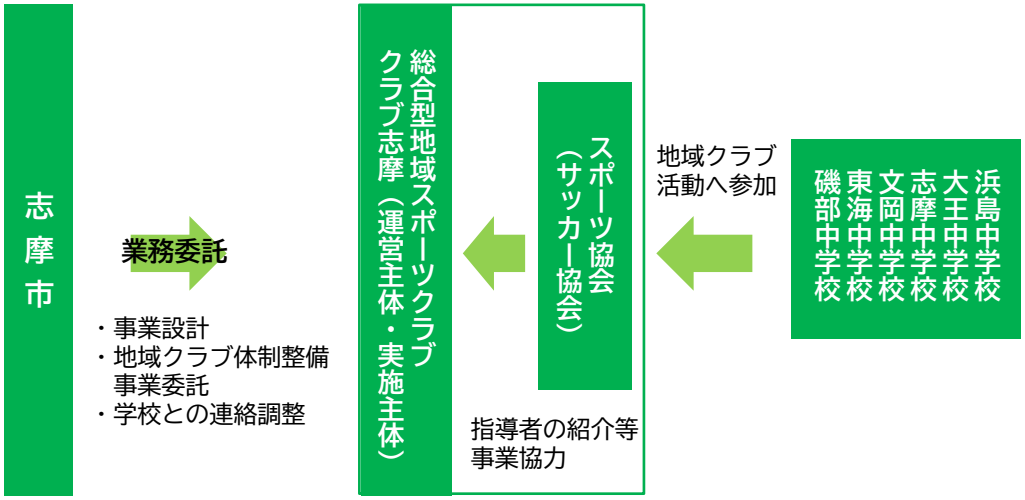
スポーツ庁

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	一般社団法人　クラブ志摩
期間と日数	サッカー：4月1日～2月28日 平日20回程度 休日月4回
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ登録指導者
活動場所	志摩市立大王中学校グラウンド
主な移動手段	自転車、公共交通機関、保護者送迎等
1人あたりの参加会費等（年額）	39,000円（クラブチーム登録し、試合に出場する場合）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり　：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●クラブマネージャー

役割：指導者の派遣やスケジュール管理、経理、各所連絡調整を行う

●主任指導者3名

役割：基礎・対人トレーニングやゲーム形式等のメニュー構成を行う

●指導補助者8名

役割：主任指導者の指揮のもと練習メニューの補助を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

運営団体・実施主体ともに総合型地域スポーツクラブであり、当該スポーツクラブとは、クラブマネージャーを始めとする関係者との良好な関係が築かれ、引き続き、密な連携を取り合っている。
補助金以外の財源確保等、当該スポーツクラブの自主運営に向けた財源確保に向け、情報提供等の支援を行い、更なる連携強化を図る。
地域展開としての受け皿となる認定地域クラブの認定要件については未整備である。

今後の取組における課題

現在、本市における休日部活動の地域展開は、先行するサッカーのみに留まっており、他競技の地域展開実施に向けた受け皿や指導者の確保が課題となっており、地域展開をさらに推進するため、中体連や市スポーツ協会をはじめとする市内のスポーツ団体と地域クラブの設置や指導者の確保に向けた検討会を、全体及び種目ごとに実施している。

取組の成果

サッカーの地域展開については、昨年度に引き続き、他競技に先行し実証事業を重ねた結果、指導体制の確保や運営面において安定化が図られており、本市における地域展開のモデルとして定着しつつある。
認定要件等については未策定であるが、国や県からの地域クラブ活動に関するガイドラインや認定要件の素案が示されたことから、早急に整備を進めていきたい。

課題への対応方針

休日学校部活動の早期地域展開に向けて、引き続き、受け皿、指導者の確保に向けた調整を行う。
未実施の取組である認定要件等の策定については、国・県から示されたガイドラインや認定要件（案）を基に、本市における認定要件（案）を策定し、令和8年度において、学校部活動在り方検討会に諮る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

教育委員会事務局において、コーディネーターとしての下記業務を行った。

- 令和8年度以降の取組に向けた学校、中体連等との情報共有、各種調整
- 令和8年度以降の取組に向けたスポーツ団体との情報共有、各種調整
- 庁内関係部署との調整（財源確保、広報、交通手段の検討 等）
- 民間企業との調整（交通手段の検討等）
- 児童生徒、教職員、保護者への意見徴収

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

現在、実証事業の運営団体・実施主体である（一社）クラブ志摩については、4半期ごとに収支バランス、経費の執行状況等、会計状況の確認を実施している。
今後、他協議の地域展開を実施する上で、本実証事業における進捗確認のノウハウを、認定地域クラブの適正な運営管理に活用する。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

実証事業の運営主体・実施主体である（一社）クラブ志摩のクラブマネージャー、その他関係者と密なコミュニケーションを図る連携体制を構築している。
クラブ運営や指導環境、生徒の安全確保等、懸念事項等が発生した際には、即座に情報を共有し、行政と運営主体・実施主体が一体となって、対処できる体制を整えた。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応、事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との連絡調整については、運営団体・実施主体である（一社）クラブ志摩主体で行われている。
※令和7年事業実施中におけるトラブル等の報告はなし。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

スポーツ協会やスポーツ少年団・総合型スポーツクラブに対し、意向調査を実施し、指導者数や資格の有無などの現状を把握した。
また、教職員についても意向調査を実施した。
休日の部活動完全移行に向け、スポーツ協会やスポーツ少年団・総合型スポーツクラブ等に対し、意向調査を実施して指導者数や資格の有無等の現状を把握し、指導者が不足する種目や資格の要否の検討を進める。

今後の取組における課題

地域展開において受皿となる地域クラブの受入れ体制の本格的な整備を図るためには、指導者の確保が重要な課題の一つとなる。
本年度に各種スポーツ団体及び教職員を対象に実施したアンケートの結果からは、競技種目によって指導希望者数に大きな偏りがあり、指導者が不足している種目が複数存在していることが確認できた。関係団体との調整等により更なる掘り起しが必要である。

取組の成果

地域展開が実施された際の指導希望について、各種スポーツ団体及び教職員を対象にアンケートを実施したことにより、指導者不足が懸念される競技種目が明確となった。また、教職員の指導希望を確認することができ、学校と地域が連携した指導体制の構築につなげていく。
（把握例）
- 競技ごとの指導希望者数。
- 兼職兼業を希望する教職員数。

課題への対応方針

引き続き、学校及び中体連、スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブ等との調整を行い、指導者の更なる掘り起しを実施する。
また、教職員の指導希望者が、円滑に地域展開に携われるよう、令和8年度中に兼職兼業のための制度を創設する。
上記を実施した上で、さらに不足が見込まれるときは、県人材バンク等の活用に向けて調整を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

平日・休日の一貫指導に関する取組

本実証事業においては、休日部活動の地域展開を見据えた休日のみの活動だけでなく、平日の学校部活動から休日の地域クラブ活動へと指導内容を円滑につなげるための試験的運用として、運営主体・実施主体である（一社）クラブ志摩との連携のもと、モデル種目であるサッカーにおいて平日夜間についても活動を実施した。具体的な活動として、令和7年4月1日から令和8年2月28日までの期間、休日の活動に加えて平日夜間に月20回程度の試験的なクラブ活動を設定し実施することで、子どもたちに対して平日・休日を通じた一貫指導を行うシミュレーション体制を構築することができた。改革実行期間内における休日部活動の地域展開の全面実施に向けた取組とともに、引き続き、平日における部活動の在り方についても検討を進めていく。

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

令和7年度については、学校部活動在り方検討会を4回実施し、下記事項について報告、協議を行った。

- 部活動改革に向けた国の動向
- 志摩市休日学校部活動における地域展開のビジョン（案）
- 地域の受入れ先確保に向けた今後の動き
- 各種アンケート結果　　等

今後の取組における課題

今後の地域展開実施に向けて、学校部活動在り方検討会における報告及び、協議事項の更なる充実を図る必要がある。単なる進捗状況の報告に留まらず、受益者負担等の在り方といった実務的な課題について、より具体的な議論を展開していく必要がある。
また、各種団体における任期が短い委員も在籍し、定期的な委員の交代が発生することから、より丁寧な情報共有が求められる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組の成果

地域展開を推進するに当たり、重要となる関係機関との合意形成、認識共有の質を向上させるため、学校部活動在り方検討会の定期開催のほか、各種関係団体との実務レベルでの検討会を随時行ったことで、指摘をいただいた情報共有の頻度の少なさについて改善を図ることができた。一方で、情報共有不足については現在も指摘があることから、引き続き、連携強化を図ることで、情報共有の改善に努めたい。

課題への対応方針

学校部活動在り方検討会における報告・協議事項の更なる充実、新たに配置された委員への適切な情報共有を図るため、地域展開の実施に向けた各種検討事項について、関係する各種団体との協議を遅滞なく密に実施し、現場の状況と行政の方針とのすり合わせを随時行うとともに、情報共有の方法を確立することで、組織としての継続性を担保する。

地域公共交通との連携に関する取組

広範囲において中学校が点在する本市において、移動手段の確保が大きな課題となっていることから、地域が保有する既存の交通インフラの有効活用を念頭に、市内の公共交通を担う企業とスクールバスの活用や既存の運行ダイヤに合わせた地域クラブ活動の実施、運行ダイヤ見直しや臨時便の運航の可能性等について検討を行った。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

子どもたちがスポーツに親しむきっかけづくりを目的に実施しているスポーツフェスティバル「GO ACTION FES.」において、リズムトレーニング指導により事業に参画している。さらに、市内の幼保園において、園児を対象とした出前授業を本市スポーツ推進委員協議会の主催事業として実施しており、幼少期からのスポーツの習慣化に向けた取組を推進している。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

先行して実施しているサッカーを含む、スポーツ8種目、文化2種目の計10種目を対象に、中学校体育連盟、各競技専門部及び各種団体との情報共有、意見交換等を実施し、改革実行期間内における休日学校部活動地域展開完全実施に向けて、令和9年度以降の地域クラブでの活動を見据えた各種課題の精査に取組んだ。

今後の取組における課題

改革実行期間内における休日部活動地域展開の完全実施という目標に向けて、受け皿となる地域クラブの適正かつ安定的な運営や、地域の指導者が安心して指導に当たることができるよう、各種支援制度の創設や環境整備が課題であり、認定地域クラブの運営や指導者確保のための資格取得に対する支援のほか、指導を希望する者が地域クラブへ円滑に参加できる環境整備が求められる。

取組の成果

改革実行期間における休日部活動地域展開の完全実施という目標に向けて、本年度の実証事業や各種アンケート調査を通じて、解決すべき課題の掘り起こしがなされた。明確となった課題を取りまとめるとともに、引き続き、国・県が示す最新のガイドラインや方針、県内市町の動向、類似の地方公共団体の事例等を注視しつつ、各種団体との意見交換、協議等を行うことで、さらに精査を行う。

課題への対応方針

諸課題に対して、各種制度の創設と環境整備を早急に進めていく。まずは受け皿の「質」を担保するため、国等のガイドラインや方針を基に、志摩市独自の「認定地域クラブ認定要件」を策定し、在り方検討会での確認を経て制度化を図る。また、認定地域クラブへの支援の在り方（補助事業、委託等）や財源の確保、指導者資格取得に係る財政支援等について検討するとともに、教職員の円滑な参画を促すため、兼職兼業に向けた制度を創設する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

市内の主要スポーツ団体を構成員とした「志摩市スポーツフェスティバル実行委員会」の主催により、スポーツフェスティバル「GO ACTION FES.」を5月6日（火・休）に開催した。
場所：志摩市阿児アリーナ
時間：11:00～16:00
実施内容：モルック、ミニロゲイニング、相撲体験、空手体験、力士と綱引き、リズムトレーニング　等
参加人数：延べ1,668人

今後の取組における課題

本事業におけるターゲットである子どもたちに来場いただくことで、多くのファミリー層の来場にもつながっている。子どもから大人まで幅広い世代の方々が来場し、ともにスポーツを楽しむことができる本事業については、市民のスポーツの習慣化や実施率の向上に向けた活用が見込まれることから、より効果的に波及効果を創出することができるよう、提供するコンテンツやターゲット層の再設定等、事業内容について検討、見直しを図る必要がある。

取組の成果

子どもたちがスポーツに親しむきっかけづくりを目的に実施し、今年度は雨天による室内開催という制限がありながらも多数の来場をいただいた。
当日は、幅広い年代の子どもたちだけでなく、多くのファミリー層が積極的に運動プログラムに参加する姿が見られた。また、たくさんの子どもたちが笑顔で様々なスポーツ・運動に挑戦し、楽しむ姿も見られ、子どもたちがスポーツの楽しさを体験する「きっかけづくり」として一定の成果を得ることができた。

課題への対応方針

市民全体のスポーツの習慣化・実施率の向上を図るための手段としてスポーツフェスティバル事業を活用し、本年度の成果と課題を踏まえた提供コンテンツの見直し、ブラッシュアップを行う。具体的には、従来の子ども向けプログラムに加え、レクリエーションやインクルーシブスポーツなど、誰もが気軽に参加し楽しめるコンテンツを提供することで、多世代交流を図るとともに、「体を動かすことの楽しさ」を体験し、生涯スポーツの推進へとつなげていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

地域クラブに活動の場を展開した際、参加者に生じる会費等の費用負担の在り方については現在も検討中であり、明確な方針は示されていない。休日学校部活動の地域展開において、事業の持続可能性を担保する上で一定の受益者負担が必要となるケースが想定される。本市の実情に応じた最適な制度設計が図れるよう、在り方検討会をはじめとする関係団体とともに継続な協議を重ね、具体的な検討・精査を行う必要がある。

今後の取組における課題

原則無償で行われてきた部活動と受益者負担が生じ得るという地域展開における考え方の違いもあり、保護者の理解等、参加者の費用負担については難しい課題である。また、地域クラブにおいて活動形態や運営コストが異なることが想定される中、各クラブ間における公平性の確保に係る検討も必要となる。さらに、経済的・環境的な理由による参加格差を解消するため、費用負担の軽減に向けた取組も求められる。

課題への対応方針

休日学校部活動を安定的かつ持続可能なものとして実施していく上で、参加者の一定の費用負担について避けては通れない課題であることから、これまで原則無償であった部活動からの地域展開に対する保護者の心理的・経済的ハードルを下げ受益者負担に対する理解を得るため、在り方検討会での協議内容や費用算定の根拠、地域クラブ化のメリット等を共有し、丁寧な対応、周知を徹底する。

また、各クラブ間における公平性を保ちつつ、家庭の経済的・環境的な理由による参加機会の喪失が生じることがないよう、参加費用の負担軽減に向けた補助金や減免等の支援制度の創設について、部局間調整を進めていく。

財源の確保については、公費だけではなく自律的な仕組みとして、ふるさと納税やクラウドファンディングを活用した財政基盤の構築を検討する。さらに、競技用備品等の整備を図るため、市内企業や各種団体による各種協賛の受入れ体制を構築しする。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

実証事業における収入・支出の状況については右表のとおり。

収入については、本市からの委託料及び運営団体の自主財源となっている。

また、支出については、クラブ運営に携わるクラブマネージャー等への賃金、指導者への諸謝金及び旅費・交通費、練習会場等の借上げに係る借料及び損料、指導者及び参加者の保険加入に係る保険料となっている。

自立的な運営による地域展開の本格実施に向けて、各種支援制度の創設も含め、受益者負担の在り方を検討していく。

●収入

項目	費用	割合
市委託料	907,614	88.7%
自主財源	115,500	11.3%
合計	1,023,114	—

●支出

項目		費用	割合
地域クラブ活動費			
	人件費・賃金	154,624	—
	諸謝金	614,400	—
	旅費・交通費	71,040	—
	借料及び損料	166,400	—
	消耗品費	0	—
	会議費	0	—
	印刷製本費	0	—
	通信運搬費	0	—
	雑役務費	0	—
	保険料	16,650	—
	消費税相当額	0	—
			—
合計		1,023,114	—

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

休日学校部活動の地域展開を円滑に実施するに当たり、学校施設は最も身近で環境が整った活動拠点であり、地域クラブの安定的かつ効率的な運営に向けて、学校施設の有効活用が重要であることから、地域展開における学校施設の優先利用について、学校の教育活動や管理運営に支障をきたさないことを念頭に現在検討を進めている。

今後の取組における課題

学校施設の有効活用を進める上では、教育活動や管理運営に支障をきたさないための具体的な運用ルールの策定が必要となってくる。施設を利用する際の開錠・施錠等のセキュリティ面に関することや施設等破損時の対応、その他不測の事態が発生した際の責任の所在等、学校と地域クラブの間で明確な責任分担を設定する必要がある。
また、優先利用についても、既存利用者との間で不公平感を生じさせないための調整が必要となる。

課題への対応方針

学校施設を休日部活動の地域展開における地域クラブの安定的かつ効率的な運営の拠点として機能させるため、地域クラブが安全かつ円滑に学校施設を利用できるよう、施設の利用方法や責任所在を明確にした指針を示す。
また、既存の利用団体との不公平感を生じさせないため、中体連や各種団体との調整の場を設けるなど意見交換を行った上で、活動場所の選定及び利用調整を行う。
さらに、受益者負担の軽減に向けて、地域クラブ等に対する施設使用料の減免措置の適用についても併せて検討を進めていく。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

令和8年度において、予約システムと連動したスマートロック（キーボックスタイプ）を導入予定である。現在、施設から離れた窓口での鍵の受渡し・返却手続きを行う必要があり、移動や時間の制約に伴う物理的・心理的負担が生じており、施設の利活用を推進する上でのハードルとなっている。スマートロックシステムを導入することで、窓口手続きによる利用者の負担を解消することが可能となる。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度は、改革実行期間中の「休日部活動の完全地域展開」を見据え、先行して実施しているサッカーの安定的な運営と、他競技への展開に向けた課題の抽出・合意形成に重点を置いて取組んだ。

【サッカーの先行実証】

昨年度に続き、（一社）クラブ志摩を運営主体・実施主体として平日夜間を含む活動を継続し、指導体制や運営の安定化を図るという目標を概ね達成した。

【体制整備と意識調査】

教育委員会事務局を中心に、学校・中体連・スポーツ団体・民間企業との多角的な調整を実施。児童生徒、教職員、保護者、各種スポーツ団体へのアンケート調査を行い、指導希望者数や兼職兼業のニーズ、移動手段の課題といった「地域展開のグランドデザイン」を描くための基礎データを収集した。

【多世代交流の促進】

スポーツフェスティバル「GO ACTION FES.」を開催し、延べ1,668人の参加を得ることで、子どもたちがスポーツに親しむ「きっかけづくり」を創出した 。

●成果の評価

昨年度からの懸念事項であった「関係者間での情報共有の頻度」については、在り方検討会や関係団体との協議を随時開催したことで改善が見られた。

【課題解決の進捗】

アンケート結果から、競技ごとの指導希望者数や、教員の兼職兼業希望者数等、具体的な現状を数値で把握できたことは、次年度の制度設計に向けた大きな前進である。

【改善点】

情報共有については改善傾向にあるものの、一部で依然として不足を指摘する声もあり、より丁寧かつ迅速な情報伝達プロセスの構築が必要である。また、経費負担（会費等）の在り方については、未だ具体的な方針の合意に至っておらず、次年度以降における重要な検討事項の一つとして残された。

●今後に向けて

令和8年度は、令和9年4月以降の地域展開実施に向けた移行期間として、地域単位を見据えた拠点校方式等による休日部活動を実施しつつ、「制度の構築」と「受け皿の具体化」に注力する。

【認定地域クラブ制度の確立・指導体制の整備】

国・県のガイドラインを基に、志摩市独自の認定要件（案）を策定し、在り方検討会に諮る。また、教職員が円滑に地域活動に携われるよう「兼職兼業制度」を創設する。

【合意形成の深化】

移動手段や受益者負担について、保護者の理解を得るための丁寧な説明と、関係機関との具体的な実務調整を推進する 。

2.実証内容と成果②

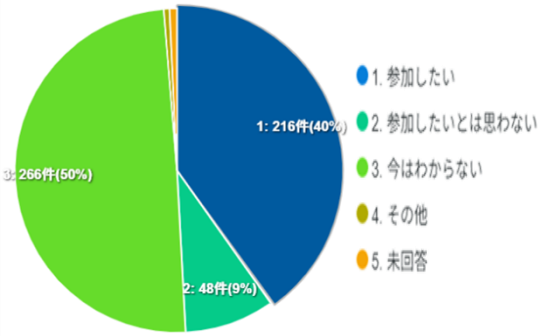
スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

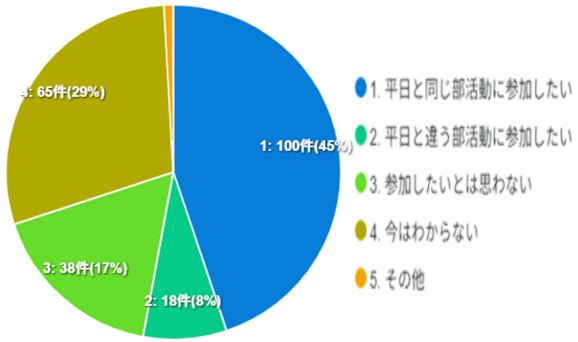
●アンケート結果

Q.拠点校での休日学校部活動に参加したいですか？

【小学5･6年生】



【中学1年生】



Q.（小中学生）休日に取組たい種目は何ですか？

：現在活動中の部活動

	志摩中学校						大王中学校						東海中学校						文岡中学校						浜島中学校						磯部中学校						小５～小６中１合計		
	小５		小６		中１		小５		小６		中１		小５		小６		中１		小５		小６		中１		小５		小６		中１		小５		小６		中１				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
野　球	1		2		1		4				4				7		3		7	0	5	0	4								1		3		2		44	0	44
サ ッ カ ー	6	1	5				3		4				2		2		1		11	1	1	0	1								8		7				51	2	53
男バスケット	4				6				3				5		10		3		7	0	4	0	6		1						3				5		57	0	57
女バスケット		4		2				1						3		5		7	0	6	0	2		5		1						1		2			0	39	39
男バレーボール			2						1				1						5		0		1												3		13	0	13
女バレーボール		2		3		5		3		1		8		2		6				7		12		7								2				6	0	64	64
陸 上 競 技	4	4	2	3	10	2				1		1	3						11	5	12	1	7	1		1	1				3	1	2	4	4		59	24	83
男ソフトテニス									2						1				5	0	13	0	13		1		1		1								37	0	37
女ソフトテニス		2		5		0				2						1		7	0	4	0	8		3				3									0	35	35
男　卓　球	2		3		4		4		1				3		9		1		9	0	7	0	4					1								1	49	0	49
女　卓　球		3				1				2				1					0	4	0	4		10								1					0	26	26
男バドミントン	1						1		1				5						6	0	1	0						1					3		4		23	0	23
女バドミントン		3		2		1		2						3		3			0	18	0	15		8					1			3		4		5	0	68	68
美術/文化/創作	1	3	1	1		5		3		3		1		4		1	1		1	4	0	4	1	1					1			1		4	4		2	10	37	47
吹　奏　楽		1												1	3	5		3	3	6	6	7	5	16								1	2		3	1	1	19	45	64
男女別合計	19	23	15	16	21	14	12	9	12	9	4	10	19	14	32	21	9	17	65	55	49	53	42	51	2	2	4	5	1	0	17	10	19	17	20	14	362	340	702
学年総計	42		31		35		21		21		14		33		53		26		120		102		93		4		9		1		27		36		34				
備　考																																							

●参加者/関係者の声

保護者アンケートの声①

拠点校や外部施設への移動は保護者の大きな負担となる。自力送迎のみでは継続が困難である。既存の公共交通機関のダイヤ調整や、地域クラブ専用の送迎手段の確保など、具体的な移動支援策が必要だと思う。

保護者アンケートの声②

地域展開に伴う会費負担について、家計への影響を懸念する。月謝もだが、遠征費や用具代を含め年間の総額がいくらになるのか。経済的に困難な家庭の子どもたちがスポーツの機会を奪われないような支援を望む。

保護者アンケートの声③

専門的な指導者による質の高い練習を期待するが、同時に地域クラブへ移行した際の安全管理に対する不安もある。責任所在の明確化や、資格など指導者の資質を公的に認定する仕組みが必要ではないか。

保護者アンケートの声④

子どもが希望する種目が地域でも維持されるのか不安である。多様な種目の活動機会が確保されるとともに、地域展開に向けたスケジュールや活動場所、費用の詳細を、保護者が早期に判断できるよう迅速に公表してほしい。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【志摩市学校部活動在り方検討会】



【中体連各競技専門部による検討会】



【スポーツフェスティバル（リズムトレーニング）】



【スポーツフェスティバル（遊びで育むスポーツ習慣）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会設置、検討開始	総合型地域スポーツクラブ「クラブ志摩」設立	地域クラブ活動の移行準備開始	総合型地域スポーツクラブ内容共有、活動拠点選定等	地域クラブ活動の地域展開モデル事業検証	
● ステークホルダー 大王サッカースポーツ少年団 ● 経過 団員減少と大王中サッカー部の部活動廃部 ● 実施に当たり生じた課題 大王地区だけでなく、阿児地区も総合型地域スポーツクラブがなかったことから、エリアカバーできるよう両地区を含めて設立を進めた。 ● 実施内容、工夫した点 設立準備会には、市、スポーツコミッションも入り、将来展望を含めて協議した。	● ステークホルダー 大王阿児地区総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会 ● 経過 サッカーをする子どもたちの受皿、環境確保 ● 実施に当たり生じた課題 大王・阿児地区サッカー種目を希望する子どもたちの受皿になるだけでよいのか？ ● 実施内容、工夫した点 総合型地域スポーツクラブが立ち上がるまで、市が介入して流れを作ることとした。	● ステークホルダー 志摩市教育委員会 ● 経過 総合型地域スポーツクラブが市内全地区をカバーできたことから総合型地域スポーツクラブ連絡会議を開催して協議 ● 実施に当たり生じた課題 スポーツ庁・文化庁からの提言による情報認知不足、指導者や地域クラブの受入体制ができていないこと ● 実施内容、工夫した点 市の方針を情報共有し、部活動の今後の推移を検証した。	● ステークホルダー 志摩市教育委員会 学校部活動在り方検討会 ● 経過 サッカー種目をモデル事業として休日の部活動地域展開を実施・検証 ● 実施に当たり生じた課題 学校部活動は現行存続している部活動がほとんどで、移行期間を設けないと子どもたちが混乱を招くことから既存の学校部活動との受け渡し等調整が必要 ● 実施内容、工夫した点 学校関係者・保護者・経済団体・スポーツ団体等を検討会に取り込み、地域課題として地域で解決すると認識させた。	● ステークホルダー 志摩市教育委員会 学校部活動在り方検討会 ● 経過 引き続き、サッカー種目をモデル事業として休日の部活動地域展開を実施・検証 ● 実施に当たり生じた課題 トラブルや事故の報告はなく、安定したクラブ運営がなされた。一方で、児童生徒、保護者への丁寧な説明が継続的な課題として挙げられた。 ● 実施内容、工夫した点 検討会において、改革実行期間における休日部活動地域展開の完全実施に向けた方針を共有した。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

